

## 谷川岳：一ノ倉沢 烏帽子岩 南稜

- ◆日程 2017年8月6日(日)  
◆メンバー L：須田k、日比野  
◆天候 曇り 雷雨

9月の3連休に新人を連れて岩の本チャンに行く計画を立てているが、初めて行くとするとやはり一ノ倉の南稜がいい。私も日比野さんも以前、登っているルートだが、河野さんに連れて行ってもらった山行だったので今回は偵察も兼ねて2人だけで登ることにした。前日の午後横浜を出て、ロープウェイ駐車場にテントを張る。ここで茨城の方に声を掛けられ、OBの伊藤俊一さんと親交のある方であることが判明。40年前にマッターホルンで知り合ったとのこと。



後日、伊藤さんがこの日に亡くなられたことがわかり、伊藤さんが引き合わせてくれたのだと、驚きを禁じ得なかった。合掌。

朝は暗いうちから歩き始め、出合に着いたときに少し明るくなってきた。一ノ倉沢を遡行して、左手のブッシュの踏み後を辿っていく。また沢に出るとそこには雪渓が広がっていて、時々雪渓の崩れる音が響く中、注意しながら雪渓を詰めていった。テールリッジの上部のスラブは厳しく、ロープを出そうかとも考えたが、ここで時間を掛けるわけにはいかないので慎重に登っていく。中央稜の基部から烏帽子スラブを左にトラバースして行くと南稜テラスに到着した。テラスで登攀用具を着けて、じゃんけんをして順番を決める。私が勝ったので1ピッチ目をトップで登ることになった。

- ・1ピッチ目は正面のフェイスを右上ぎみに登ると狭いチムニーが現れた。チムニーは岩が濡れているうえに足場がなく、登り方がわからず5分くらい右往左往していた。ザックを下ろさないと無理か、と悩んでいたが思い切って岩に飛びついてからジリジリと背中を付けて擦りあがっていった。5mほどでいい支点があったのでピッチを切る。1ピッチ目で大汗をかいてしまった。
- ・2ピッチ目はホールドの豊富な快適なフェイスで日比野さんが順調に登って行った。そこからは緩傾斜の草付帯を60m辿る。
- ・3ピッチ目は私がフェイスを左上に上がりながら、ハングを左に巻くように登った。
- ・4ピッチ目は日比野さんが馬ノ背リッジに取り掛かった。右に烏帽子沢奥壁がすっぱりと切れ落ちた、高度感抜群のリッジである。50mロープいっぱいには支点を取る。
- ・5ピッチ目はトップを替わって10mほど登る。
- ・最後に6ピッチ目の垂壁がこのルートの核心部だ。下から見るより実際にはかなり立って

いてホールドも少なく、かなり手強い。前回来たときはリードで登らせてもらったので、今回は日比野さんに譲る。案の定かなり手こずっていたが気合で登ってくれた。

フェイスを登ったところが終了点で 15m先に 6 ルンゼの懸垂下降の支点がある。通常だところを懸垂下降で下りて本谷バンドに至り、そこから南稜テラスにトラバースするのだが、今回は稜線まで詰めて、谷川岳頂上を経由してロープウェイで下りることにした。

烏帽子岩まで草付と露岩帯を登っていくが、ロープなしだとかなり難しい登攀だった。さらにそこからは背丈の高い笹藪が生い茂っていて、しまいには雨が降り出してきて悲惨な状況になった。やっとのことで稜線に辿り着いたが、雨脚が激しくなり、雷も鳴り響いていた。登山道は沢のように水で溢れ、すぐ近くで雷がバリバリドカーン！と爆音が轟いて生きた心地がしなかった。しかしロープウェイの最終が 17 時だったので歩くしかなく、疲労もピークに達していたが二人で懸命に歩き続けた。

何とか 17 時前にロープウェイに乗れたときは心底ほっとした。湯の陣という温泉旅館で風呂に入り、30 分ほど休憩所で横になった。結局自宅に帰ったのは 23 時過ぎで、長い長い 1 日がやっと終わった。充実した山行だったが、正直しばらく岩はいいかなあ、と思っている。

CT : ロープウェイ駐車場 3:40 - ノ倉沢出合 4:30 - 取り付き 6:30

- 終了点 11:00 - 稜線 12:00 - トマノ耳 14:00 - ロープウェイ 16:45

(記 : 須田 k)

